

内水試のコイ種苗出荷量と県内養殖業生産量について

福島県内水面水産試験場 生産技術部

1 部門名

水産業－内水面（増養殖）－内水面養殖業

2 担当者名

坂本 啓・遠藤雅宗・渡邊昌人

3 要旨

福島県内水面水産試験場（以下、内水試）のコイは、有用形質継代の試験研究を行う中で、余剰分を養殖業者へ供給してきたが、その後の生産にどのように寄与しているか整理されていない。そこで、内水試のコイ種苗出荷量と県内コイ生産量を整理した。その結果、県内コイ生産量に占める内水試種苗の割合は2019年～2021年で49～74%で推移し、重要な供給源であった。また、聞き取り調査から内水試のコイ種苗の要望が高く、養殖種苗として好評であった。

- (1) 内水試からのコイ種苗出荷量を年齢別出荷量に換算し、コイ生産量に占める内水試種苗の割合を算出した結果、2019年が49%、2020年が59%、2021年が74%となった。（表1）。
- (2) 聞き取り調査の結果、内水試のコイは体高が高く、骨が細いため、養殖種苗として好評であることが明らかになった。

表1 コイ生産量に占める内水試種苗の割合

年	内水試種苗分			③ (①+②) 換算値合計 (kg)	④県内養殖業 生産量 (kg)	重量割合 (③/④)
	種苗出荷量 (尾)	①2歳魚生産量 換算値 (kg)	②3歳魚生産量 換算値 (kg)			
2015	170,000				932,000	
2016	236,000	※ 各種苗群を同色で示す。			912,000	
2017	316,000	142,800		142,800	871,000	16%
2018	300,000	198,240	102,000	300,240	846,000	35%
2019	685,000	265,440	141,600	407,040	830,000	49%
2020	240,000	252,000	189,600	441,600	744,000	59%
2021	328,000	328,800	180,000	508,800	683,000	74%

※ 聞き取り調査から得られた換算値算出方法

・出荷した種苗は生産までに8割が生残した。

・2015～2018年の種苗は「2年魚 (1.5kg) : 3年魚 (2.5kg) = 7 : 3」で出荷した。

・2021年はコロナウイルスの影響により、2019年の種苗は「2年魚 (1.5kg) : 未出荷 = 4 : 6」とした。

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 優良形質・高品質魚の作出と有用形質継代（継代魚管理）

5 主な参考文献・資料

(1) 平成27年度～令和2年度福島県内水面水産試験場事業概要報告書

(2) 平成27年度～令和3年度農林水産省漁業・養殖業生産統計